

1 総合評価の結果

建物名称	リストレジデンス藤沢本町			
BEE (建築物の環境効率)	1.6	BEEランク	A	

2 重点項目への取組み度

重点項目	評価	劣る	よい
地球温暖化への配慮 (ライフサイクルCO₂) 地球温暖化の主因である二酸化炭素の排出量削減対策に関する項目 LCCO ₂ (ライフサイクルCO ₂): 建設してから解体するまでの建築物の一生(ライフサイクル)で使われる資材・エネルギーをCO ₂ 排出の量に換算し、足し合わせたもの	LCCO ₂ 排出率	70%	
ヒートアイランド現象の緩和 ヒートアイランド現象(=都市部の気温が周辺部よりも高くなる現象)を緩和する対策に関する項目	スコア	3.0	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア (5点満点 平均スコア=3点)

地球温暖化への配慮	レベル	評価のポイント	
LR3/1 地球温暖化への配慮	4.2	標準計算によるLCCO ₂ (ライフサイクルCO ₂)排出率を評価	
建設	LR2/2.1 材料使用量の削減	2	構造躯体用部材の生産・加工段階における廃棄物削減の取組みを評価
	LR2/2.2 既存建築躯体等の継続使用	3	既存の建築躯体の継続利用有無および範囲による評価
	LR2/2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	3	躯体材料へのリサイクル材利用を評価
運用	Q1/2.1.3 外皮性能	4.2	窓まわり、外壁、屋根や床(特にビロティ)における室内への熱の侵入に対する配慮の程度および庇やブラインド等の設置による日射遮蔽の程度を評価
	LR1/1 建物の熱負荷抑制	5	室内における「夏の暑さ」と「冬の寒さ」を防ぐための建物の基本性能として、断熱・気密性能を評価
	LR1/2 自然エネルギー利用	3	自然エネルギーの直接利用(採光利用、通風利用、地熱利用など)、変換利用(太陽光、太陽熱など)の導入の有無、導入の割合を評価
	LR1/3 設備システムの高効率化	4.8	空調・換気・照明・給湯・昇降機によるエネルギー消費量の削減対策を評価
LR1/4 効率的運用	3	エネルギーの管理と制御によるエネルギー消費量の削減対策を評価	
修繕更新解体	Q2/2.2.1 躯体材料の耐用年数	5	構造躯体などに使用する材料の交換等大規模な改修工事を必要とするまでの期間を伸張させるための対策の程度を評価
ヒートアイランド現象の緩和	レベル	評価のポイント	
Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上	3	熱的な悪影響を低減する対策(敷地内へ風を導く、緑地や水面を確保する、建築設備による排気や排熱の位置等に配慮するなどにより暑熱環境を緩和する対策)を評価	
LR3/2.2 温熱環境悪化の改善	3	温熱環境の事前調査、敷地外への熱的な影響を低減する対策、温熱環境悪化改善の効果の確認に関する取組み度合いを評価	
関連項目	レベル	評価のポイント	
LR2/1.1 節水	1	節水への取組み度合いを評価	
Q3/1 生物環境の保全と創出	1	生物環境の保全と創出に関する配慮(立地特性の把握と計画方針の設定、生物資源の保全、緑の量・質の確保、生物環境の管理と利用など)を評価	

主な指標および効果		新エネルギーの導入状況			
LCCO ₂ の削減率 (= 1 - LCCO ₂ 排出率)	30%	種類	有無	種類	有無
PAL値/省エネ対策等級(1~4)	4 / - (集合住宅)	太陽光		バイオマス	-
(工場用途は評価対象外)		定格出力 (5kW)	5.04	温度差熱	-
				水力	-
		太陽熱	-	地熱	-
ERR (設備システムの高効率化)	56.5%	風力	-		

設計上の配慮事項(自由記述)	
・形態意匠に変化をつけヒューマンスケールを損ねないような外観とし、周囲の植栽との調和を図りながら、周辺への圧迫感を和らげるような建築計画とした。 ・住居系用途地域において、隣地樹木を考慮して建物高さを抑え周辺環境への圧迫感を軽減し、周囲との調和を図っている。 ・住宅性能表示基準「5-1.省エネルギー対策等級」における等級4とした。 ・潜熱回収型給湯器を採用。	・住宅性能表示基準における劣化等級3を確保して、躯体材料耐用年数への配慮を行い、断熱材にはA種吹付けウレタンフォーム及びA種ポリスチレンフォームを採用することで、オゾン層破壊や地球温暖化に対し配慮した計画とした。